

基礎から学ぶ弁膜症手術 -僧帽弁-

帝京大学心臓血管外科 下川智樹

僧帽弁形成術の手術手技は、いわゆる手術テクニックだけではなく、術前の心エコー検査からはじまる。下記に示すように、

1. Preop. echocardiography -Valve Analysis-
2. Preoperative plan
3. Approach -Exposure of Valve-
4. Operative assessment -Valve Analysis-
5. Surgical technique
 1. Annuloplasty
 2. Correction of Leaflet Prolapse
 3. Patch Repair
 4. Mobilization
6. Intraop. assessment -Leak test, TEE-
7. Postop. echocardiography

術前術中（形成前後）の弁評価と手術計画が重要である。本セミナーでは、いわゆる手術テクニックである弁輪形成術、弁尖切除術、人工腱索再建術についてブタ心臓を用いてその実際を行うとともに、手術手技としての術前後の弁評価方針、手術計画を学習する。また、併せて僧帽弁形成後の状態を大動脈弁側、左室側から観察し、僧帽弁とその他の心臓腔、弁の位置関係を観察する。